

2024(令和6)年度 全国学力・学習状況調査

逗子市の結果について

(1) 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる
- 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する

(2) 調査の対象

- 逗子市立小学校第6学年児童 451名
- 逗子市立中学校第3学年生徒 378名



(3) 調査の内容

①教科に関する調査（小学校：国語、算数 中学校：国語、数学）

出題内容はそれぞれ次の（１）と（２）を一体的に問う。

- （１）身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能 等
- （２）知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力 等

②質問紙調査

○調査する学年の児童生徒を対象とした、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

○本年度の主な調査項目は以下のとおり。

- ・挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感、幸福感等
- ・部活動に関する状況
- ・ICTを活用した学習状況
- ・主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況
- ・学習に対する興味・関心や授業の理解度等

(4) 調査の方式 悉皆調査

(5) 調査日 2024年（令和6年）4月18日（木）

(6) 調査結果の分析にあたって留意したこと

本調査の結果から見てとれることとして、次のような点に留意して分析を行った。

- ①実施教科が「国語」「算数・数学」の2教科であり、学習指導要領のすべてを網羅するものではないことから、児童生徒が身につけるべき学力の特定一部であること。
- ②年度により問題の質が異なるため、経年変化の状況のみから学力の向上・低下の傾向を容易に評価することは難しいこと。

(7) 調査結果(正答率)

(小学校)

教 科	逗子市正答率	神奈川県正答率	全国正答率
国 語	66%	67%	67.7%
算 数	63%	64%	63.4%

(中学校)

教 科	逗子市正答率	神奈川県正答率	全国正答率
国 語	62%	59%	58.1%
数 学	56%	54%	52.5%

令和6年度全国学力・学習状況調査の結果の分析（小学校国語）

逗子市教育委員会

調査結果の概要及び教科の課題等

（○全国平均＋5％程度良かった点や特徴ある点等 ●全国平均－5％程度課題や改善点等）

結果の概要	全体の正答率は66%と、全国の平均正答率よりやや低い結果となった。 領域ごとの正答率では、「言葉の特徴や使い方に関する事項」と「我が国の言語文化に関する事項」では全国より5%以上低い傾向が見られた。 問題形式では、選択式は全国平均を多少上回り、記述式は5%低い結果となった。 なお、過去3年間の同調査結果においては、本市の平均正答率は全国、神奈川県の前年正答率と同等もしくは上回っており、過去の本市の結果と比較しても今年度は下がっている。また、問題形式ごとに見ると、過去3年間の記述式は多少下回ってはいたが、令和6年度は全国平均より5%低い結果となった。
言葉の特徴や使い方に関する事項	○該当なし ●学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる問題、特に「協議」の書き取りでは、全国正答率を11.3%下回っている。また「投げる」の書き取りは9.3%下回っている。【2三ア】
情報の扱い方に関する事項	○該当なし ●該当なし
我が国の言語文化に関する事項	○該当なし ●日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気付くかどうかをみる問題では全国正答率を7.4%下回っている。【3四】
話すこと・聞くこと	○該当なし ●該当なし
書くこと	○該当なし ●目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる問題では、全国正答率を5.2%下回っている。【2二】
読むこと	○登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えることができるかどうかをみる問題では、全国正答率を4.9%上回っている【3二（1）】 ●人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができるかどうかをみる問題では、全国正答率を4.9%下回っている。【3三】
児童質問紙 国語に関連する質問 問43～51	○国語の勉強は好きですか。（＋3%）【42】 ○国語の授業で、物語を読むときに、登場人物の性格や特徴、物語全体を具体的にイメージし、どのような表現で描かれているのかに着目していますか。（＋5%）【49】 ●国語の授業で、目的に応じて、話すために集めた材料を、いくつかのまとまりに分けたり結び付けたりしながら、伝える内容を考えていますか。（－4.3%）【47】

令和6年度全国学力・学習状況調査の結果を受けての逗子市としての取り組み

逗子市教育委員会

調査の結果を受けて、今後の指導改善に向けて逗子市として取り組むこと(小学校国語)

概要

児童質問紙から、「PCやタブレットなどのICT機器を使用している」児童が多く（27 全国25.3%に対して本市37.4%）、「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるように資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表すること」（29 全国25.9%に対して本市33%）や、「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して調べたことを発表するなどの学習活動に積極的に取り組んでいる」様子も多く見られた（38 全国36.5%に対して本市38.6%）。また、「国語の勉強は好きですか」の質問に対して全国より3%高いポイントである。しかしながら、「国語の授業で、目的に応じて話すために集めた材料を、いくつかのまとまりに分けたり結び付けたりしながら伝える内容を考えていますか」の質問に対する回答が、全国平均より4.2%低いことや、問題に対する正答率が全体的に全国平均より低くなっているところから鑑みると、機器類を多く利用し、発表することに対しては積極的に取り組んでいるが、内容の部分でどう考えたらよいかに戸惑っている児童も多いのではないかと考えられる。特にここ数年、書くことのポイントは低迷しており、コロナ禍において低学年での丁寧な指導が十分にされないまま高学年へと進む児童が増えていることも考えられる。

読むことについては、3つの問題すべて全国正答率よりも高いポイントとなっている。引き続き、低中高学年と、系統的に指導を重ねていけるとよい。

誰一人取り残さない学校を目指し、すべての子どもたちの可能性を引き出せるよう「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させ、児童一人ひとりが「学ぶ意欲」をもって学習に参加できるよう市として授業改善に取り組んでいく。

【言葉の特徴や使い方に関する事項】

漢字を書くことについては、当該学年の前の学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使おうとする習慣を身に付けるとともに、当該学年に配当されている漢字をだんだんに書けるようにし、文や文章の中で使うようにすることが重要である。第5学年及び第6学年は、漢字による熟語などの語句の使用が一層増加する時期であるため、漢字のもつ意味を考えて使う習慣が身に付くようにすることが大切である。

【我が国の言語文化に関する事項】

日常的に読書に親しみ、読書が自分の考えを広げることに役立つことに気付くためには、本などの言葉などから自分を支える言葉を見付けたり、今までになかった考えを発見したりすることによって、読書の意義をより強く実感することが大切である。

【話すこと・聞くこと】

話すことにおいては、自分の目的や意図に応じるとともに、聞き手の求めていることに応じて集めた材料をどのように整理すればよいかを考えることが求められる。また、聞くこと、話し合うことにおいても、聞いたり話し合ったりすることを具体的に考え、関係する材料を整理しておくことが重要である。学習指導に当たっては、交流する前に、話合いの目的や方向性、聞き手の求めていることを知り、それらを踏まえて、展開や内容を想定し、伝え合う内容を検討する場面を設定することが重要である。その際、集めた材料を聞き手が知りたい内容と自分が伝えたい内容に整理したり、目的に応じて優先順位を考えたりできるようにすることが大切である。また、必要に応じて提示する資料を検討するよう促すことも考えられる。

【書くこと】

事実と感想、意見とを区別して書くためには、事実を客観的に書くこととともに、その事実と感想や意見との関係を十分捉えて書くことが重要である。このことは、自分の考えたことなどが客観的な事実に裏付けられたものになっているかどうかを振り返り、自分の考えをより深めていくことにもつながる。また、事実と感想、意見とを明確に区別して書くためには、文末表現に注意することも重要である。

【読むこと】

物語などを読み、登場人物の人物像を具体的に想像するためには、登場人物の行動や会話、様子などを表している複数の叙述を結び付け、登場人物の相互関係などを手掛かりにして、性格や考え方などを総合して判断することが重要である。また、読書が自分の考えを広げることに関与することに気付くためには、本の中の言葉などから自分を支える言葉を見付けたり、今までになかった考えを発見したりすることなどによって、読書の意義をより強く実感できるようにすることが重要である。読むことの学習が、日常的な読書活動に結び付くようにすることが大切である。

令和6年度全国学力・学習状況調査の結果の分析（小学校算数）

逗子市教育委員会

調査結果の概要及び教科の課題等

（○全国平均＋5％ 程度良かった点や特徴ある点等 ●全国平均－5％程度課題や改善点等）

結果の概要	本市の平均正答率は63％であり、全国、神奈川県の平均正答率と同等程度であった。学習指導要領の領域全てにおいても、同様に全国、神奈川の平均正答率をと同等程度であった。その為、下記の領域ごとの分析については、「○国平均＋5％ 程度良かった点や特徴ある点」や「●全国平均－5％程度課題や改善点」の記載はほとんど「該当なし」となった。 なお、過去3年間の同調査結果においては、本市の平均正答率は全国、神奈川県の前年度の平均正答率を上回っており、過去の本市の結果と比較すると今年度は下がっている。また、問題形式ごとに見ると、令和5年度は全ての形式において正答率が全国、神奈川県の前年度の平均を上回っていたが、令和6年度は全国・神奈川県の前年度の平均と同等程度であった。 また、昨年度は、ほとんどの問題において無回答率が全国、神奈川の平均値を下回る結果となっていたが、今年度は問題形式を問わず、多くの問題で無回答率が全国、神奈川県平均を上回った。
(算数) 数と計算	○該当なし ●該当なし
(算数) 図 形	○該当なし ●該当なし
(算数) 変化と関係	○速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察できる。（＋4.7％） 【4（2）】 ○速さの意味について理解している。（＋5.3％）【4（4）】 ●該当なし
(算数) データの活用	○該当なし ●該当なし
児童質問紙 算数に関する質問 問 50～57 (算1・2)	○「算数の勉強は好きですか」（＋8.8％）【50】 ○「算数の勉強は大切だと思いますか」（＋4.7％）【51】 ○「算数の授業の内容はよく分かりますか」（＋9.4％）【52】 ●「今回の算数の問題では、言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか」（－8.3％）【算1】 ●（算数1）（算数2）ともに無回答が（＋6.4％）

令和6年度全国学力・学習状況調査の結果を受けての逗子市としての取り組み

逗子市教育委員会

調査の結果を受けて、今後の指導改善に向けて逗子市として取り組むこと(小学校算数)

令和6年度調査では、どの項目も全国平均と同等程度となった。この結果を本市の過去3年間の結果と比較すると正答率は低下したと言える。令和6年度の調査結果を受けて、本市の令和5年度調査結果と比較・分析すると、正答率の低下は以下の3つの要因が考えられる。

(1) 無回答率の増加

昨年度までは、無回答率が低く、粘り強く問題に取り組む姿が見られたが、令和6年度は、無回答率が問題形式を問わず高くなっている。また、最初の3問以降の問題において、無回答率が高くなる傾向がある。最初の躓きが、後の問題への意欲低下へと繋がっていると考えられる。

(2) 調査問題への取り組む姿勢についての課題

選択式問題が無回答であったり、選択肢にないものを塗りつぶしていたりする児童が一部見られた。(算数1)(算数2)の質問は、選択式にも関わらず、9.4%もの児童が無回答であった。また、このことも影響したと考えられるが、(算数2)「解答時間は十分でしたか」については、解答時間が十分と答えた児童が昨年と比較して9.8%も減少している。時間を意識して調整し、問われていることを正しく理解し、最後まで問題に取り組むことが難しかったと考えられる。

(3) 全問正解者の減少と全問不正解者の増加

令和5年度は、全問正解である正答数16問の児童と、正答数15問の児童を合わせると19.0%を占め、正答数0を除く正答数2区切りの階層では、「正答数16.15」の階層が最も多い割合を占めていた。令和6年度の同階層の児童は12.7%となり、令和5年度の値と比較し6.3%減少している。なお、令和6年度の最も多い正答率の階層は一つ下の「正答数14.13」の階層で21%であった。また、微増ではあるが正答数0の児童の割合が0.7%から1.2%に増えている。

質問紙調査では、「算数の勉強は好きですか」(42.8%)【50】、「算数の勉強は大切だと思いますか」(79.0%)【51】と回答するなど本市の児童の算数学習に対する興味関心は高い。高い興味関心を生かして、学習した知識や概念を表面的な意味で理解し、なぜそうするのか分からないまま手順だけを身に付けていくことがないように、深い学びへとつなげていく必要がある。

そのためには、生活場面における事象と算数の内容を関連付けて考えたり、学習したことを用いて自分の考えを表現したりするなど、主体的に学習に取り組める課題や場の設定及びそのための支援について工夫することに取り組む。また、学習の定着には繰り返し取り組むことが必要であることを意識して授業改善を図っていく。

誰一人取り残さずに、全ての子どもたちの可能性を引き出せるよう「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させ、児童一人ひとりが「学ぶ意欲」をもって学習に参加できるよう市として授業改善に取り組んでいく。

【数と計算】

*計算に関して成り立つ性質を見だし、表現することができるようにする指導を充実させるためには、

適用する数の範囲を広げていながら統合的・発展的に考え、共通点に着目させ、ほかの数でも成り立つかどうか確かめることができるようにすることが大切である。また、見いだした性質について、その意味を考え、どの数でも当てはまるようにまとめるよう問い返すなど、一般的に表現しようとする態度を育てる。

【図形】

＊図形の学習においては、図形についての見方や感覚を豊かにすることが大切である。単なる知識として図形の性質を指導するだけでなく、具体物を操作しながら図形を構成したり分解したりする活動を通して、図形の性質や構成要素に着目して考察し、基本的な平面図形について理解できるようにする。

【変化と関係】

＊伴って変わる二つの数量の間の関係を、言葉、図、数、表、式、グラフなどを用いて表し、変化の様子や対応の規則性を読み取ることができるようにすることが大切である。また、日常生活の中で、伴って変わる二つの数量関係が成り立つ場面を課題に設定するなど、日常生活での問題解決に生かす活動を取り入れる。

【データの活用】

＊日常生活において、目的に応じて、必要な資料を収集し、グラフから資料の特徴や傾向を読み取ることができるようにするとともに、複数の資料の特徴や傾向を関連付け、一つの資料からは判断することができない事柄についても判断することができるようにすることが大切である。また、統計的な問題解決活動を行う場面を設定し、その結論をレポートやポスターなどにまとめて発表する活動を通して、表現力を伸ばすことも重要である。

令和6年度全国学力・学習状況調査の結果分析（児童質問紙）

逗子市教育委員会

特徴的なことや課題と考えられること等

- 「5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか」の質問に「発表していた」「どちらかといえば発表していた」と回答していた児童の割合が76.8%で全国、神奈川県との割合より高い。
- 「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか」の質問に「よくある」と回答した児童の割合が全国、神奈川県との割合より高い。
- 「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」の質問に「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童の割合は61.9%で、全国、神奈川県との割合より低い。
- 「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の質問に「当てはまる」と回答した児童の割合が68.2%と全国、神奈川県との割合より低い。

令和6年度全国学力・学習状況調査の結果を受けての学校としての取組

逗子市教育委員会

調査の結果を受けて、今後の指導改善に向けて学校として取り組むこと

- 逗子市立学校において推進している支援教育の充実を目指し、一次支援について、学校がすべての児童・生徒にとって、安全・安心な居場所となるための「魅力ある学校づくり」と「わかりやすい授業の工夫」への取り組みを、より丁寧に行う。
- いじめは、人間として決して許されない行為であるということを、すべての児童・生徒・保護者・教職員学校関係者、その他子どもに関わる全ての大人が共有し、いじめの根絶に取り組む。
- 個別指導やグループ別指導や児童・生徒の興味・関心等に応じた課題学習などにより、個々の学習に向かう意識を育むとともに、個々の学習や体験をつなぐ場面を大切に協働的な学びを展開する。他者との学びによって自分の考えや活動が深められたり、広げられたりする経験を通して意見を交わす楽しさを味わうことができるようにする。
- 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実が、「誰一人取り残すことのない学びの実現」へとつながるよう、ICTを活用した授業改善を図る。

令和6年度全国学力・学習状況調査の結果の分析（中学校国語）

逗子市教育委員会

調査結果の概要及び教科の課題等

（○全国平均＋5％ 程度良かった点や特徴ある点等 ●全国平均－5％程度課題や改善点等）

結果の概要	全体の正答率は62%と、全国の平均正答率を上回る結果となった。 領域ごとの正答率では、「書くこと」に関する平均正答率が全国を7.9%上回った。 問題形式では、記述式が6.9%上回る結果となった。 なお、過去3年間の同調査結果においては、本市の平均正答率は全国、神奈川県の平均正答率を上回っている。また、問題形式ごとに見ると、過去3年間の記述式は平均正答率は平均的に上回っている。今年度も同じ傾向と言える。
言葉の特徴や使い方に関する事項	○表現の技法について理解しているかどうかをみる問題では全国正答率を7.8%上回っている。【4一】 ●該当なし
情報の扱い方に関する事項	○具体と中傷など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる問題では、全国正答率を7%上回っている。【2二】 ●該当なし
我が国の言語文化に関する事項	○該当なし ●該当なし
話すこと 聞くこと	○必要に応じて質問しながら話の内容を捉えることができるかどうかをみる問題では、全国正答率を7.4%上回っている。【1一】 ○資料を用いて、自分の考えがわかりやすく伝わるように話すことができるかどうかをみる問題では、全国正答率を7.4%上回っている。【1二】
書くこと	○表現の効果を考えて描写する等、自分の勸化が伝わる文章になるように工夫することができるかどうかをみる問題では、全国正答率を10.9%上回っている。【3四】 ●該当なし
読むこと	○文章の全体と部分との関係に注意しながら、主張と例示との関係を捉えることができるかどうかをみる問題では、全国正答率を7.2%上回っている。【2三】 ○目的に応じて必要な情報に着目して要約することができるかどうかをみる問題では、全国正答率を8.6%上回っている。【2四】
生徒質問紙 国語に関連する質問 問 43～51	○国語の勉強は好きですか。（＋8.7%）【42】 ○国語の授業の内容はよく分かりますか。（＋10.2%）【44】 ○国語の授業で学習したことは、将来、社会に出た時に役立つと思いますか。（＋5.8%）【45】 ○国語の授業で話を聞いたり文章を読んだりするときに、具体的な情報と抽象的な情報との関係を捉えて理解していますか。（＋10.7%）【46】 ○国語の授業で、話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめていますか。（＋8.1）【47】 ○国語の授業で、自分の考えが伝わるように、表現の効果を考えて文章を書いていますか。（＋10.4）【48】 ○国語の授業で、説明的な文章を読み、目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈していますか。（＋9.1）【49】

令和6年度全国学力・学習状況調査の結果を受けての逗子市としての取り組み

逗子市教育委員会

調査の結果を受けて、今後の指導改善に向けて逗子市として取り組むこと（中学校国語）

概要

「1・2年生の時に受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用しましたか」に対して多く使用する生徒は全国平均より30%近く多く、課題に積極的に取り組む生徒も多い。

国語に関しての質問事項は概ね5%を超える回答率で、「国語の授業の内容はよくわかりますか」の質問に対して、よくわかるが全国平均より10%高いポイントである。それ以降の質問でも、学びについての理解度は高い回答率になっていることから、学びの楽しさが理解につながっていることを示していると予想できる。

生徒質問紙から、「学校の授業以外に普段一日当たりどれくらいの時間勉強しますか」の質問に対し、勉強時間が長い生徒は全国平均に比べ本市は10%以上も多い。また、「土曜日や日曜日など学校が休みの日に一日当たりどれくらいの時間勉強をしますか」の質問に対し、勉強時間が長い生徒は全国平均に比べ本市は5%以上も多い。学校の学習以外にも時間を要して取り組む生徒が多い実態が見える。しかし、逆を考えると、学校の学習以外の時間を取れないでいる生徒への学校での学習の配慮については、熟考する必要がある。

【言葉の特徴や使い方に関する事項】

漢字の書きについては、中学校修了までに文や文章の中で使い慣れる必要がある。そのため、実際に書く活動を通して、漢字を正しく用いる態度と習慣とを養うことが大切である。また、1人1台端末等を活用して文字を入力する際にも、漢字がもつ意味に注意して、適切に選択する力を養うことが重要である。さらに、文章の中ばかりではなく、「A話すこと・聞くこと」の学習の中や、他教科等の学習や日常の会話の中でも漢字の書きについて意識するよう指導することも大切である。

【情報の扱い方に関する事項】

相手の考えを理解したり自分の思いや考えを表現したりするためには、原因と結果、意見と根拠など、話や文章に含まれている情報と情報との関係について理解することが重要である。

【話すこと、聞くこと】

話し合いを通じて自分の考えをまとめる際には、何についてどのような目的で話し合っているかといった、目指している到達点を常に意識し、互いの発言を結び付けられるようにすることが重要である。そのためには、話し合いにおけるいずれの段階においても、話題を意識しながらその経過を捉えて話したり聞いたりすることができるように指導することが大切である。

【書くこと】

物語を創作する際には、目的や意図に応じて題材を決め、伝えたいことを考えながら、書くための材料を集める必要がある。その上で、伝えたいことが明確になるように、材料を比較しながら取捨選択したり、関係付けをしてまとめたりするなど、集めた材料を整理することが大切である。

【読むこと】

図表や写真などを含む説明的な文章を読む際には、示されている図表などが、文章のどの部分と関連しているのかを確認するなどして、書き手の伝えたい内容をより正確に読み取ること、図表などを示すことで文章にどのような効果が生まれているのかを考えることが重要である。

令和6年度全国学力・学習状況調査の結果の分析（中学校数学）

逗子市教育委員会

調査結果の概要及び教科の課題等

（○全国平均＋5％程度の良かった点や特徴ある点等 ●全国平均－5％程度の課題や改善点等）

結果の概要	本市の平均正答率は56%であり、全国の平均正答率を3.5%上回る結果であった。学習指導要領の4領域のどの領域においても、全国、神奈川県の前平均正答率を上回る結果であった。 評価の観点においても、知識・技能、思考・判断・表現ともに全国、神奈川県の前平均正答率を上回る結果であったが、知識・技能に比べ、思考・判断・表現は、全国、神奈川県の傾向と同じく平均正答率が下がることに課題が見られる。 問題形式毎に見ても、全ての形式において正答率が全国・神奈川県の平均を上回った。中でも、短答式は72.2%と全国平均を5.2%上回った。
(数学) 数と式	○「数と式」領域の全ての問題において、全国平均を上回った。 ○連続する二つの偶数を、文字を用いた式で表すことができる。(＋6.2%)【1】 ●該当なし
(数学) 図形	○「図形」領域全体でみると正答率は全国平均を4.9%上回った。 ○「図形」領域の全ての問題において、全国平均を上回った。 ○筋道を立てて考え、証明することができる。(＋5.5%)【3】 ●該当なし
(数学) 関数	○「関数」領域の全ての問題において、全国平均を上回った。 ○事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる(＋4.5%)【8(2)】 ●該当なし
(数学) データの活用	○簡単な場合について、確率を求めることができる。(＋8.1%)【5】 ○与えられたデータから最頻値を求めることができる。(＋7.2%)【7(1)】 ●該当なし
生徒質問紙 算数に関する質問 問50～57 数(1・2)	○数学の勉強は好きですか(＋5.8%)【50】 ○数学の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか(＋4.5%)【54】 ○数学の問題の解き方が分からない時は、あきらめずにいろいろな方法を考えますか(＋5.9%)【55】 ○数学の授業で学習したことを、今後の学習で活用しようとしていますか(＋7.7%)【57】

令和6年度全国学力・学習状況調査の結果を受けての逗子市としての取り組み

逗子市教育委員会

調査の結果を受けて、今後の指導改善に向けて逗子市として取り組むこと(中学校数学)

令和6年度調査の本市の平均正答率は56%であり、全国の平均正答率を3.5%上回る結果であった。学習指導要領の領域全てにおいても、全国、神奈川の平均正答率を上回る結果であった。特に「B 図形」の領域では、全国平均正答率を5.2%上回った。評価の観点、問題形式の分類から見ても、全てにおいて、全国、神奈川の平均正答率を上回っている。

令和5年度の分析では、基礎的な知識・技能の習得ができていない生徒も一定数いることが課題として挙げられていた。そのことを受け、誰一人取り残さない学びの充実を図る為、「協働的な学び」と「個別最適な学び」の一体的な充実を図ってきた結果、学習の基礎基本を定着させることができた。

知識・技能の問題についての正答率は66.6%であり全国平均より3.5%高い。特筆すべきは、「正答数0問」の生徒が一人もいないことである。加えて、「正答数1」「正答数2」の割合も全国平均正答率と比較すると半分以下の割合である。

質問紙に目を向けると「算数の勉強は好きですか【50】」では「1 当てはまる」の割合も全国割合平均と比較して5.8%高いが、「4 当てはまらない」も全国割合平均と比較すると6.5%も低いことが本市の特徴である。このことは、「数学の勉強への苦手意識を軽減し、数学の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか【54】」(+4.5%)にも表れているように、数学の学習を日常生活と繋げて考えられる様、日常生活を意識した問題を考えるなど、学ぶ意欲を高める授業改善を図ってきた成果だと考える。

これからも、基礎的な知識・技能の習得を図るとともに、習得した知識を活用して問題を解決したり、事柄や事実から問題を見出したりする学習をより一層充実させ、思考力・判断力・表現力を育成していきたい。そのためには、様々な事象を数学的に捉える、数学的に表現・処理する、解決過程を振り返り得られた結果の意味を考察するなどの活動を通して、数学を活用して事象を論理的に考察する力を養うように取り組み、生徒一人ひとりが「学ぶ意欲」をもって学習に参加できるよう授業改善を図っていきたい。

【数と式】

* 文字を用いた式の中の文字のもつ意味について理解を図るために、文字にいろいろな数を代入することで変化する式の値の様子から式の意味を考察するなど、具体的な数を用いて表現し文字のもつ意味について考える。

* 事柄が一般的に成り立つ理由を、筋道を立てて説明できるようにするために、成り立つと予想した事柄について、文字式や言葉を用いて解決するための見通しをもち、その見通しを基に根拠を明らかにして説明する活動を充実させる。

【図形】

* 図形の学習においては、実際に図に表したり、作図したりするだけでなく、論理的に考察するとともに、考察したことについて筋道を立てて説明することが大切である。また、その際には、自分が納得できるとともに他人を説得できると実感できるよう、生徒が見いだしたことや工夫したことなどを、数学的

な表現を用いて論理的に説明し伝え合う活動を充実させる。

【関数】

＊様々な問題を数学的に活用して解決できるようにするために、問題解決の方法に焦点を当て、「用いるもの」と「用い方」を明確にして問題解決の方法を説明する活動を充実させることが大切である。その際に、問題解決のために表した表、式、グラフをどのように用いればよいか説明し合う場面を設定し、検討する活動を充実させる。

＊日常生活や社会の事象などの具体的な場面に関数を活用することができるよう、関数を用いて具体的な事象を捉え考察するとともに、その考察の過程や結果を表、式、グラフを用いて説明する活動を充実させる。

【データの活用】

＊代表値を求めたりデータの分布の様子を読み取ったりする場面を設定し、その傾向を捉えて、データに基づいた判断や主張を批判的に考察することを通して、よりよい解決や結論を見いだすことができるようにする。

＊日常生活や社会における不確定な事象に関する問題に対して、目的に応じてデータを収集し、ヒストグラムなどに整理し、そのデータの傾向を読み取り、それに基づいて判断し統計的に問題解決する活動を充実させる。

令和6年度全国学力・学習状況調査の結果分析（生徒質問紙）

逗子市教育委員会

特徴的なことや課題と考えられること等

- 「自分には、よいところがあると思いますか」の質問に「当てはまる」と回答した生徒の割合は52.9%で、全国、神奈川県との割合と比べて高い。
- 「将来の夢や目標を持っていますか」の質問に「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した生徒の割合は71.5%で、全国、神奈川県との割合と比べて高い。
- 「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか」の質問に「当てはまる」と回答した生徒の割合は56.4%で、全国、神奈川県との割合と比べて高い。
- 「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか」の質問に「当てはまる」と回答した生徒の割合は全国、神奈川県との割合と比べて10%以上高く、「どちらかといえば当てはまる」を含めても全国、神奈川県との割合と比べて5%以上高い。
- 「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」の質問に「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した生徒の割合は60.8%で、全国、神奈川県との割合と比べて低い。

令和6年度全国学力・学習状況調査の結果を受けての逗子市としての取組

逗子市教育委員会

調査の結果を受けて、今後の指導改善に向けて学校として取り組むこと

- 逗子市立学校において推進している支援教育の充実を目指し、一次支援について、学校がすべての児童・生徒にとって、安全・安心な居場所となるための「魅力ある学校づくり」としてお互いを認め合う学級づくり、援助的・親和的な学級づくりなど、様々な活動を通して取り組む。
- 道徳教育、キャリア教育など、活動を通して自分や他者と向き合い、様々な気づきを大切にによりよく生活していくことや学習をしていくことを学ぶことができるよう指導改善を図る。
- 授業でICT機器を使用した経験のある生徒が非常に多い。生徒が各教科や各授業時間のねらいや目標を意識し、課題に取り組むことができるようにするとともに、ICT機器の活用を検討することや調べ学習等においてICT機器の活用のメリット・デメリットを生徒自身が理解し取捨選択できるようにする。
- 学校図書館の活用を推進するとともに、新たな本との出会いを促せるよう様々なネットワークを活用し、読書や活字に親しむ機会をつくる。